

# 平成30年度 百合丘高等学校 年間指導計画

教科・科目	公民・倫理	学年	第2学年	教科書	清水書院「高等学校 新倫理 新訂版」
		単位数	2単位	副教材	清水書院「高等学校 現代倫理 新訂版 ワークノート」

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間の在り方生き方を主体(自己)との関わりから考えることができる。</li> <li>人間としての在り方生き方について、ギリシャ思想などの代表的な先哲の思想や芸術家とその作品を手掛かりとして広い視野に立って主体的かつ公正に判断できる。</li> <li>日本人にみられる人間観・自然観・宗教観などの特質について、自己形成の課題とつなげて、多面的・多角的に考察できる。</li> <li>「人間の尊厳と生命への畏敬」や「自然と科学技術と人間とのかかわり」について人格形成に寄与する知識として身につけている。</li> <li>現代の諸事象について、倫理的視点から主体的に課題を見だし、探究できる。</li> </ul>
------	---

学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業における課題や定期テストの設問に対して自ら考え、また理解した内容を表現してもらおう活動も取り入れます。</li> <li>授業の成果物やプリント、ノート等を定期的に提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。</li> </ul>
------	---

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	関心・意欲・態度	人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらにかかわる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。
b	思考・判断	生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断できる。	
c	資料活用の技術・表現	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を収集し、これらを自己形成に資するよう活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。	
d	知識・理解	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などにかかわる基本的な事柄を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身につける。	

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法	
					a	b	c	d			
前期	青年期の課題と人間の自覚	10	現代に生きる人自己の課題	人間とは何か	○				a自ら体験や悩みを振り返り、青年期の意義と課題の理解を意欲的に行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習状況観察</li> <li>ノートの確認</li> <li>プリント演習</li> <li>前期定期試験</li> </ul>	
				青年期の課題と自己形成	○	○		○	b豊かな自己形成に向け、他者ともに生きる自己の生き方について考え、人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などについて理解し、その意義を深く考えている。		
		18	人間としての自覚と生き方	人生における哲学	○		○	○	c人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などについて、理解が深まるよう有効に資料を活用している。		
				人生における宗教①			○	○	d人間の存在や価値に関わる基本的な課題、人間としてのあり方生き方や宗教・芸術の意義の理解を深め、知識が定着している。		
				人生における宗教②	○	○		○	a日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質について関心を高めつつ意欲的に理解しようとしている。		
				人生の知恵	○		○		bわが国の風土や伝統、外来思想の受容に触れながら、自己とのかかわりについて考え、判断し、国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方を考えている。		
			人生における芸術			○	○	c日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質や、わが国の風土や伝統、外来思想の受容について、その理解を深められるよう資料を有効に活用している。			
				人生における芸術			○	○	d日本人としての伝統的な思想、宗教的背景について理解している。		
後期	現代と倫理	12	現代社会と倫理	現代の倫理的課題	○			○	a人間の尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と人間との関わりへの関心を高め、現代に生きる人間として意欲的に追求しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習状況観察</li> <li>ノートの確認</li> <li>プリント演習</li> <li>後期定期試験</li> </ul>	
				現代に生きる人間の倫理①	○			○	b民主社会における人間の在り方、社会参加とボランティア、自己実現と幸福などについて倫理的な見方や考え方を深め、表現している。		
				現代に生きる人間の倫理②	○	○		○	c人間の尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と人間との関わりについて自らの考えや意見を形成できるよう多方面の資料を十分に活用している。		
				現代に生きる人間の倫理③	○	○		○	d他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題として人間の尊厳や現代に必要な倫理観を身につけている。		
		12	国際社会に生きる日本人の自覚	日本の風土と外来思想の受容①	○			○	a生命、環境、家族、地域社会、世界の様々な文化や宗教、高度情報社会、人類の福祉について、それぞれの理解、また倫理的課題を自己の課題とつなげ、意欲的に追求しようとする姿勢がある。		
				日本の風土と外来思想の受容②			○		b現代に生きる人間としての在り方・生き方について自覚を深く考えようとしている。		
				日本の風土と外来思想の受容③	○	○		○	c生命、環境、家族、地域社会、世界の様々な文化や宗教、高度情報社会、人類の福祉のそれぞれが抱える課題について、その理解や考察が深まるよう有効に資料を活用している。		
		12	現代の諸課題と倫理	現代の日本と日本人としての自覚			○	○	d生命、環境、家族、地域社会、世界の様々な文化や宗教、高度情報社会、人類の福祉に関する理解、またそれぞれが抱える課題について、基本的な知識を身に付け、現代に生きる人間としての在り方・生き方と自己を自覚し、理解している。		
				生命と倫理・環境と倫理	○	○		○			
				現代の家族とその課題など	○			○	○		
				グローバル化の時代と倫理	○			○	○		
合計時数(55分授業)		64									

